

ていた望遠鏡を下宿の裏山の頂きに置いていた。その夜松林のなかの小道を足元をちいさな灯りで照らしながら登っていた。と、目先の暗闇からばたばたと大きな山鳥が飛び立っていった。その音におどろいて胸をおさえながら山小屋について屋根を開いた。そして見上げた空のペルセウス座のなかに 1948g 彗星が肉眼で見える 4 等ぐらいの明るさで長い尾を引いて輝いていた。これは、いままでわたしが肉眼で出会ったただ一つの星であるが、このときのあの山鳥の囀りの中のはげしい羽ばたきと、その後でペルセウス座に見たこのホンダ・ペルナスコニ彗星の、あのあでやかな姿をいっしょにいつも思い出す。

1965 年のイケヤ・セキ彗星は、発見された 9 月 19 日の同じ時刻、台風一過の美しい空にわたしもその空を見ていた。しかし、わたしの望遠鏡の前には、ちょうどその位置となりのお家のこんもりとした庭木があった。この庭木のこんもりとした黒い陰をいまも時おり思い出すのである。

1934 年の 12 月ヘルクス座に現われた明るい新星は、夜毎にこと座のヴェガの近くの空にあやしく輝いて、星が好きになりはじめたころの私の心をうばっていた。

それが、新星というものに深い関心をもつようになったそもそものはじめだったように思う。

1936 年 6 月のとかげ座新星、それから同じ年の 10 月に現われた射手座の新星、この二つは日本人の発見であっただけに心をときめかせたものであった。そしていつのほどにか、わたしも思うようになったのであった。その後にもまた、1967 年いるか座に現われたし、1975 年の白鳥座の星などは厄巻でもあった。

あれやこれや、夜毎空が晴れて山小屋の屋根をあけると、星のほうでそこに待っていてくれる。なにもしつらえなくても星のほうで待っていてくれるなんて、なんともったいないことか、ほんものが、人に例えれば、本人がそこに迎えてくれるのです。それは最高の歓迎ではないですか。そのような人達に、なにを観測だ、検索だであろうか。

ただただ星に教えてもらえばよいと思う。悠久の空にある星々や彗星や新星にものを尋ねる、このことさえも謙虚さを欠き、思い上がりにもおもえるのに、今夜も次々と星は昇り、わが山小屋を訪れてくれる……。迎えるのは、たった一人だと言うのに。

本田さんからの最後の便り

本田 実氏が亡くなられた。1990 年 8 月 26 日の午後のことである。本田さんは大正 2 年 (1913 年) 2 月 26 日のお生まれだから行年 77 歳と丁度半年ということになる。

本田さん、といえど誰れでもが“ああ、彗星の!”という。財団法人・倉敷天文台の台長職（といっても職員は台長 1 人?）として、また財団法人・若竹の園保育園の園長として激務をこなして来られた。その傍ら、私設の観測所「星尋山荘」を倉敷市の北・賀陽町の山中に設け、ほとんど毎晴夜観測に出かけられ、星にものを尋ねる生活をしておられた。

ここに 1 通の速達封書がある。その封書の表書き宛名は、国立天文台・太陽系情報室・香西洋樹と、墨痕あざやかな毛筆書き。倉敷郵便局のスタンプは 8 月 25 日であり、三鷹局への到着日付は 8 月 26 日である。8 月 26 日は日曜日で、郵便物の配達はなく、天文台へ配達されたのは翌 27 日月曜日のことであった。速達の内容は 8 月 23 日の 21 時 22 分から 21 時 32 分までの間に露出した“たて座”の写真の中に不審な星像があるということで“同封の変光星を教えて下さいませんか”と記してある。本田さんは常々、星にものを尋ねているといろいろなことがあります、といっておられた。今回も同様で、この様なお問い合わせを、ここ 10 年間以上も毎年 10~20 回近く頂いて来た。今回の御問合せに対しては御葬儀の際に御報告させて頂いた。

さて、ここに掲載させて頂いた本田さんの一文は、新

香西洋樹

彗星のほうで待っていてくれる
なにもしつらえなくても星のほうで待っていてくれるなんて、
なんともったいないことか、ほんものが、人に例えれば、本人
がそこに迎えてくれるのです。それは最高の歓迎ではないですか。
そのような人達に、なにを観測だ、検索だであろうか。

敬具

本田 実

星研究者として、また最近ではリラー彗星 (1988a) の発見でも知られる W. Liller 氏の依頼により、Liller 氏の著書の中に英訳されて掲載されるはずの随筆である。英訳されて出版されたとしても、日本では多くの方々の目にふれる機会は少いであろう。そしてまた、多分本田さんの絶筆かも知れない。そういうわけで奥様の御許しを得て、本誌に掲載させて頂くことにした。執筆の日付は、つまびらかではないが、1990 年 6 月上旬であることは間違いない。

本田さんの最後は、本当に安らかであった由、この悲報に接し、多くの天文学の愛好者が涙と共に葬儀に参列した。本田さんの法名は 徳星院慧光実道居士 である。

心より哀悼の意を捧げると共に御冥福をお祈りしたい。

1990 年 9 月 4 日

香 西 洋 樹